



保健だより

2021.6.1 南青山病後児保育室

手足口病

毎年、暑くなるこの時期になると手足口病でのお預かりのお問い合わせが多くなります。お預かりしたおこさん全員が手足口病という日があるくらい、この時期に多くみられる感染症です。

原因

ウイルス感染

感染経路はくしゃみや唾液を通じて感染する飛沫・接触感染、便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染する糞口感染があります。

急性期に最もウイルスが排泄され感染力が強いですが、回復後にも2～4週間程度便からウイルスが排泄されると言われています。

原因となるウイルスがたくさんあるので、一度罹っても再び罹ってしまうことがあります。

症状

手のひら、指の間、足の裏、膝、口の中、お尻などに水疱性発疹がみられます。

発熱がみられることもありますが、あまり高熱にならないことが多いです。

稀ですが、髄膜炎や脳炎、急性心筋炎などを合併することがあるので注意深い観察が必要です。

発症者の多くが子どもですが、まれに大人が発症する場合があります。

子どもの場合、口内炎以外は痛みがない事が殆どですが、大人が罹ると痛みが強いことが多いです。

治療

手足口病に対しての薬はなく特別な対応をしなくても自然に治りますが、発熱や口内炎の痛みなど苦痛に対して症状を和らげる対症療法を行います。

上記合併症を引き起こすことがあるので高熱や頭痛、嘔吐などの症状がある場合や、ぐったりとしている場合などはすぐに受診しましょう。

